

with goa

ウィズ・ユー



P2 くまもとし けんり
熊本市こどもホットラインです(こどもの権利サポートセンター)

P3 しょう ひと じんけん かんが ぜんこうどうとくかじゅぎょう ところ ふか げっかん がつ とりくみ
障がいのある人の人権を 考 える全校道徳科授業～ 心 のきずなを深める月間(6月)の取組～
かわちゅうがっこう
(河内中学校)

P4 うえききたちゅうがっこう しゅうねんきねんぎょうじ うえききたちゅうがっこう
植木北中学校40周年記念行事(植木北中学校)

P5 かていきょういくがっきゅう あんない こ そだ かた まな わ あ しょうがいがくしゅうか
「家庭教育学級」のご案内～子育てを語ろう、学ぼう、分かち合おう～(生涯学習課)

P6 せいび がっこうしせつか
バリアフリートイレの整備について(学校施設課)

P7 はいじつやす かん せいど し どう か
「こどもの平日休み」に関する制度について(指導課)

P8 ひろ ちいききょういく わ ちいききょういくすいしんか
広げよう地域教育の輪①(地域教育推進課)

P9 ひろ ちいききょういく わ ちいききょういくすいしんか
広げよう地域教育の輪②(地域教育推進課)



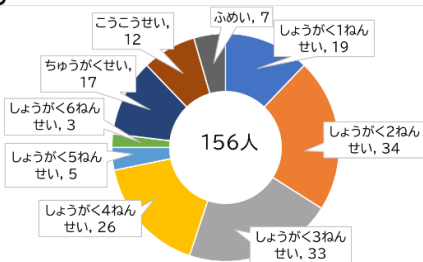
れいわ ねんど ねんど
令和6年度（2024年度）

くまもとし かつどうほうこく
「熊本市こどもホットライン（こどホッと）」活動報告



こんにちは！「こどホッと」です。令和6年度（2024年度）は、298件（こどもから156件、かぞくから90件、その他から52件）の相談が寄せられました。今回は、こどもからの相談を中心に、どのような相談だったか報告します。「こどホッと」のことを知ってもらうことが、一人で悩んでいる人の「相談してみようかな…」の行動につながればいいと思います（*^▽^*）

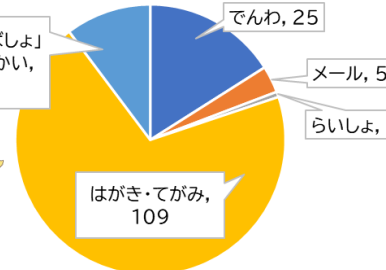
なんねんせい そうだん
何年生からの相談が多いの？



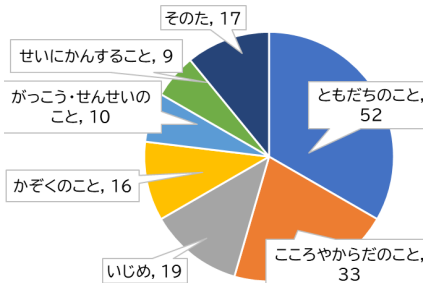
こどもからの相談は、156件。小学校低学年から高校生まで、いろんな学年のこどもたちが、相談してくれました！その中でも、小学2年生（34人）、3年生（33人）は、特に多かったです。
「はがき相談」をスタート（熊本市立の1～4年生とあおば支援学校のみなさんに1枚ずつ配付）したことで、こどもからの相談がぐ～んと増えました。

こま 困った時、「こどホッと」のことを思い出して
きも 気持ち伝えてくれて、ありがとう！
そうだん ぼうほう “こどもが相談しやすい方法”について、よい
アイディアがあったら、ぜひ教えてくださいね！

「あなたのいばしょ」
からのしょうかい、
16



そうだん
どんなことの相談が多いの？



「友だちのこと」「心や体のこと」「いじめ」「家族のこと」など、様々な相談がありました。「友だちのこと」では、やめると言えない、仲直りの方法を知りたい等、「自分の心や体のこと」では、イライラする、いろんなことが不安になる、友だちにどう思われるか心配などがありました。

【「こどホッと」からのメッセージ】

「だれにも話せなかった気持ちを聴いてほしい」「今のきつい状況を変えたいので力をかけてほしい」など、「こどホッと」への相談理由は様々です。また、「今の状況をよくしたいけれど、家族や学校の先生には相談したことを知られたくない」という人も多くいます。そんな時「こどホッと」は、まず、「心配をかけたくない」「相談したことが相手の友達にバレないか心配」「これまでも相談したけれど、気持ちを分かってもらえなかった」など、そう思う理由を聴かせてもらいます。これからどうするとよいか一緒に考える中で、やっぱり家族や先生に力になってもらうことが必要となった場合は、いつ・だれに・どのように伝えるかについても、相談者と細かく打ち合わせをしていきます。「こどホッと」もいっしょに身近なおとなの人とつながりながら、相談者の応援団を広げ増やしていています。

【相談方法・時間】

・電話相談：（こども用・無料）0120-273-070
（大人用）070-3367-9330

※午前10時から午後6時まで（土・日・祝日、年末年始をのぞく）

・メール相談：kodomohotline@city.kumamoto.lg.jp

※24時間受付（夜間・休日等は、休み明けの平日の対応）

・はがき相談 ※現在、熊本市立の小学校1～4年生が対象



くまもとしこどもホットライン
（くまもとしホームページ）

学習用タブレットの「こどホッと」のアイコンからもホームページにつながります！



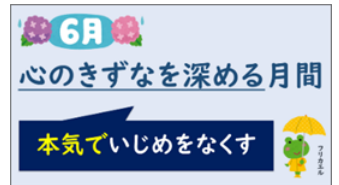
【チャット相談】（24時間365日）
くまもとし 熊本市と連携している「NPO法人あなたのいばしょ」のサイトにつながります。

障がいのある人と共に学ぶ「ゲスト道徳」in河内中

今回のゲストは、なんと…中学生とその保護者！！

「障がい」を自分事として受け止め考えました

河内中では、6月11日（水）の5・6校時、熊本市「心のきずなを深める月間」の核として、「ゲスト道徳（障がいのある人の人権を考える道徳授業）」を行いました。参加者は全校生徒、教職員、保護者・学校評議員・民生児童委員の皆さん。他に、教育関係者による視察もありました。生徒にとっては「授業」であり、教職員にとっては、教師としての資質・能力を高めるための「研修」と位置付けたこともあり、参加者全員が主体的に考え、議論し、「障がい」を自分事として受け止めました。



ゲストは・・・生徒たちと同じ中学生とその保護者！！

今回のゲストは、県立の特別支援学校教諭である日置健児朗先生、そしてそのお子さんである中学2年生の日置鈴さんでした。鈴さんは、一昨年の12月、ある病気の発作がきっかけで命が危うい状態になり、その後も大変心配な状況が続きました。約半年後の昨年の6月、やっと意識が戻りましたが、体の動きや考えること、食べることなどが全てリセットされてしまいました。つまり、障がいをもつことになったのです。

日置先生は、特別支援教育の専門的な立場、そして障がいのあるお子さんの保護者という立場で、丁寧にわかりやすく、そして率直にご自身の思いを話してくださいました。休み時間には、生徒や教職員が鈴さんと握手をしたり、日置先生や鈴さんと対話をしたりするなど、笑顔でにぎやかな交流ができました。これまでの道徳授業では、教科書をはじめとする様々な教材をとおして、登場人物の立場に立って考えること（想像すること）はたくさん行ってきましたが、今回は、当事者やその家族と同じ空間で過ごし、「声」を直接聴き、共に授業を展開したことで、一歩踏み込んだ深い学びになりました。

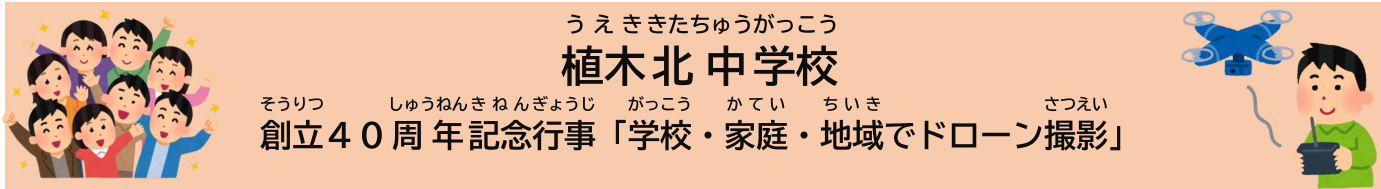
来校者から「単なる授業ではなく、子どもたち、私たち大人、全ての者たちの心を揺さぶる何物にも変え難い学びの場でした」「当事者と触れ合い、当事者のご家族がその思いを具体的に話してくださったことで、人権というものを抽象的な概念というよりももっと差し迫ったもの、血の通ったものとして感じる事ができました」等の言葉をいただきました。



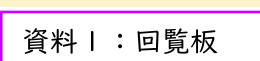
- ★私は、今自分が生きていることは当たり前のことではなく、かけがえのない、とても幸せなことだと気づきました。「スロープにたくさんの靴が置いてあった場面」では、「嫌だ」という思いを鈴さんから聞きました。自分自身に置き換えたときも不快だと感じます。なので、自分から行動して助けられる人になりたいです。障がいがあっても私たちと変わらない人間なので、差別や偏見は絶対になくさなければいけません。まずは自分が障がいについて理解を深め、誰にでも対等に接していきたいと思いました。〔生徒〕
- ★我々、教職員にとっても、大変良い機会だったと思います。共生社会を目指すとはいえ、身近に障がいのある人があまりおらず、意識して生活することもほとんどありませんでした。しかしながら、今回、この機会に様々な困難を抱えながらも、色々な人が支えあって生活している現実を改めて知ることができました。〔教職員〕
- ★このような素晴らしい企画に出会ったことはありませんでした。鈴さんと触れ合うことにより、一人一人が自分のこととして、この現実を重く受け止めていることが伝わってきました。話し合いの場に入らせていただくと、子どもさんたちは学年関係なく堂々と自分の意見を述べる事ができており、大変感心しました。日頃から学校全体でこのような取組を積み重ねておられるのだと感じました。〔来校者〕

その他の感想は、河内中ホームページより、学校だより「わくわくKAWACHI」（第6号）[1286246424.pdf](#)にてぜひご確認ください。本校は、「自他の尊重」（道徳教育×人権教育×特別支援教育）を土台とした教育活動に、これからも学校総体で、家庭や地域と共に、本気で取り組み続けます。今後とも注目いただけると幸いです。

お問い合わせ先 河内中学校 TEL：096-276-0030

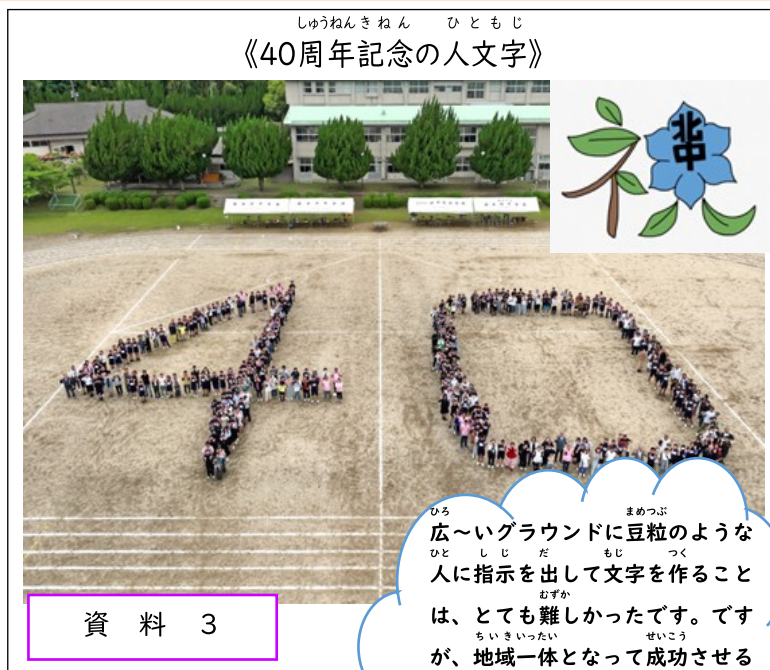


くまもと市しゅう えききたちゅうがっこう ことし そうりつ しゅうねん む か きねんぎょうじ
熊本市立植木北 中学校は今年、創立40周年を迎えます。その記念行事として
たいいくたいかいしゅうりょうご ほんこう さつえい おこな
体育大会終了後に本校グラウンドでドローン撮影を行いました。
ほんこう ぜんこうせい と めい しょうきぼこう ひともし つく にんずう た
本校は全校生徒120名の小規模校で、人文字を作るには人数が足りないの
ほ ごしや かくかてい きょうりよく とも こうく ぜんかてい
で、保護者をはじめとした各ご家庭の協力 と共に、PTAから校区の全家庭に
さん かぼしゅう しりょう かいらん
参加募集のチラシ(資料1)を回覧しました。
とうじつ せいと しょういん ほごしや かぞく ちいき かたそうぜい にん ほんこう
当日は、生徒・職員・保護者や家族、地域の方総勢300人が本校グラウンド
あつ せいとかい し じ も じ つく じょうくう ま
に集まり、生徒会の指示のもと、「40」の文字を作りました。上空に舞うドロー
みあ えがお て ふ さつえい お
ンを見上げながら、笑顔で手を振り撮影を終えました。



さつえい がぞう ほんこう こうか せいとかい
撮影した画像は、本校の校歌と生徒会がデザインしたスタンプ
しりょう せいと かてい きねんひん
(資料2)とともに、クリアファイルにし(資料3)、生徒・家庭に記念品
はいふ ちいき かた きぼう かた
として配布します。地域の方にも、希望する方にはPTAが販売を
おこな よてい
行う予定です。
せいと ほごしや せいと ちいき かた よろ さんか
生徒や保護者、生徒はもとより、地域の方にも喜んで参加してい
たいへん い ぎ しゅうねんき ねんぎょうじ じっし
ただき、大変意義のある40周年記念行事を実施することができま
ちいき あい がっこう つづ
した。これからも地域に愛される学校であり続けます。

う え き きたちゅうがっこうそうりつ しゅうねんき ねん
植木北 中学校創立40周年記念
こうくうしゃんさつえい おこな かいらんばん
航空写真撮影が行われると回覧板が
まわ ひごろまご えんぼう
回ってきました。日頃孫たちは、遠方に
す ちゅうがっこう ほうもん きかい
住んでいるので中学校 を訪問する機会はこ
れまでありませんでした。
わたし ことしせいじゆ むか きねん とし
私は、今年米寿を迎える記念の年でもあ
けんがくほうもん たの
り、見学訪問しようと楽しみにしていまし
ほうもん とき ちゅうがっこう せいと
た。訪問した時、中学校の生徒たちは、
げんきいっぱいようどう み
元気一杯運動をしていました。その姿見て
じぶん ちゅうがくじだい おも
いと、自分の中学時代のことを思い、
なつ ひた しばら
懐かしさに浸っていました。暫くすると、
さつえい ほじ みなみ ほう みあ
撮影が始まり、南の方を見上げると、ド
せま み
ローンが迫ってくるのが見えました。その
とき しゃしん み まどお しゃしん
時の写真が見たくて待ち遠しいです。写真
み かんどう
を見たらきっと感動するだろうと
おも
思います。



ひろ まめつぶ
広～いグラウンドに豆粒のような
ひと しじ だ もじ つく
人に指示を出して文字を作ること
は、とても難しかったです。です
おずか
が、地域一体となって成功させる
ちいき いったい せいこう
ことができてとても良かったです。
きょうりよく
ご協力ありがとうございました。
せいとかいよう
生徒会長



「家庭教育学級」のご案内

～子育てを語ろう・学ぼう・分かち合おう～

「子育ての悩みを相談できる仲間がほしい」「子育てについて学びたい」と思われている保護者の皆さん、家庭教育学級に参加してみませんか。

家庭教育学級は、保護者等が集まり、こどもの心や成長過程への理解、親の役割、こどもへの接し方などの家庭教育に関する学習や意見交換を自主的かつ継続的に行う場です。



ペットボトルピザ作り(小島小)



親子カヌー体験(富合小)



火おこし体験(健軍東小)

ここでの活動は、子育ての悩みや不安を共有しながら、家庭教育のあり方を学び、親として自己を振り返る大切な時間となります。

熊本市の家庭教育学級は、幼稚園、小・中学校単位で開設されており、こどもの発達支援に関する講話、親子で楽しみながら食育について学ぶ「ペットボトルピザ作り」など、充実した学習が進められています。

学級生からは「学年の垣根を超えて楽しく交流できた」「家ではできない貴重な体験ができた」「子どもも大人も一緒になって活動し、笑顔であふれていました」などの嬉しい声がたくさん聞かれます。

参加のご希望や新たな学級開設の手続等、家庭教育学級に関してのお尋ね等がございましたら、お気軽にお近くの公設公館にご連絡ください。



こうしゃ たいいくかん

せいび

校舎と体育館にバリアフリースイレを整備しています



れいわ 12 ねんど しょうがっこう ちゅうがっこう こうしゃ たいいくかん せいび
令和12年度までにすべての小学校と中学校の校舎と体育館にバリアフリースイレを整備して
いきます。整備が終わった学校の割合は校舎56 % 、体育館64 % です。

バリアフリースイレって
なあに？

れいわ ねん がつじてん
(令和7年3月時点)

だれ つか としよ ちい
バリアフリースイレは誰でも使いやすいトイレのことです。お年寄りや小さな
こ ひと つ あんしん つか くふう
子どもまでけがをしている人や赤ちゃんを連れた人も安心して使えるように工夫し
ています。



きんきゅうよびだ

緊急呼出しボタン



かいじょう

介助用ベッド



べんざ てす

バリアフリースイレ 便座・手摺り



オストメイト

くふう
こんな工夫をしているよ！

- くるま ひろい
・車いすでも入れる広いスペース
- りょうがわ て すり せっち きんきゅうよびだし
・両側に手摺りを設置・緊急呼出しボタン
- かいじょう
・介助をするためのベッド
- おぶつながし せんじょうようすいせん
・汚物流しと洗浄用水栓 (オストメイト)

さくねんど こう たかはししょう あきたひがししょう あきたみなみしょう けんぐんしょう なかししょう たかひらだいしょう あ そうだいしょう ふるまちしょう やまもとしょう せきだい
昨年度は13校(高橋小、飽田東小、飽田南小、健軍小、中島小、高平台小、麻生田小、古町小、山本小、碩台
しょう せいざんちゅう さんわちゅう くすのきちゅう せいび
小、西山中、三和中、楠中)に整備しました。

と あ さき がっこうせつか
お問い合わせ先 学校施設課 TEL: 096-328-2709

「こどもの平日休み」に関する制度について

「こどもの平日休み」とは

家族で過ごす時間や自分自身の進路について考える時間の確保、児童生徒が所属するクラブチームにおける平日の大会等への参加など、こども及び家庭の状況に応じてこどもが平日に休みを取れるようにするものです。

「出席停止、忌引き等」となり、欠席にはなりません。この制度は保護者の責任のもと利用してください。

年度中に3日まで取得することができます。

対象は熊本市立の小学校、中学校、特別支援学校、高等学校で、令和7年(2025年)の2学期始業式から制度の運用を開始しました。

ご留意いただきたいこと

○下記の例を参考に学校へ連絡してください。

(例) すぐーるの欠席連絡で「都合欠」を選択し、備考に「平日休みです」と記入して制度利用の意思を伝える。

○制度を利用することで受けられない授業内容については、特別な補習は行いませんので家庭での自習等をお願いします。

○各学校で制度を利用できない期間が決まっています。学校のホームページなどでご確認ください。

Q&A

Q1 どうして『こどもの平日休み』の制度を作ったのですか。

こども及び家庭の状況に応じてこどもが平日に休みを取れるようにするためです。

Q2 休みを半日単位でとったり、連続してとったりすることはできますか。

また、残った日数は、次の年度に繰り越すことはできますか。

休みは1日単位です。連続してとることはできますが、残った日数を次年度に繰り越すことはできません。

Q3 どこかへ旅行に出かけてもよいのですか。

旅行に出かけることもできますし、家や地域で過ごすこともできます。大切な授業の代わりになります。家庭でよく話し合って決めてください。

Q4 休んだ日にケガなどをした場合、どうなりますか。

学校の管理下での活動ではないため、学校で任意加入している日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度の対象外となります。実施前に家庭で個別に保険に加入することをお勧めします。

とあさき
お問い合わせ先

しどうか
指導課 TEL 096-328-2721

広げよう地域教育の輪①

特色ある地域教育の取組を発信し、こどもたちの多様な学びを支援します。

今回は、令和6年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞された画図小学校の取組について紹介します。

画図小学校PTA活動のコンセプト

『この地域でよかった』と思える地域づくり

地域団体や校区内のボランティア団体と協働し、将来、こどもたちが帰って来やすい地域づくりと、こどもたちも主催者側に立つイベントを行いながら、今後の地域の担い手を創るPTAとして、地域一体となった魅力ある活動に取り組まれています。

【えずしょうマルシェ】

年度初めにPTAの活動方針や意義等を会員のみなさんに伝えるとともに、画図小に関わるボランティア団体が参画するマルシェを行い、親子で楽しく参加しています。

【画図ロックフェスin収穫祭】

PTAと校区まちづくり委員会の協働活動で、こどもがイベントスタッフや演者となり、地域貢献の意識の高まりや達成感を得られる機会となっています。



【大綱引き大会】

地域の伝統行事で、PTAと子ども会が協力して、綱練りから行っています。当日は各町内のみなさんとともに、大綱引き大会を開催しています。

【どんどこや】

PTAの委員活動である「どんどこや委員会」を中心に、おやじの会と協力してやぐら組みを行い、地域のみなさんとともに無病息災を願っています。

画図小PTAのみなさんは、地域愛（こどももおとなも）を育むことを目的に、想いをもった仲間が集い、モチベーションを高め合い、持続可能な仕組みづくりを工夫しながら、様々な活動に取り組まれています。

PTAは、こどもたちのため、会員が相互に学び合い、学校を支援する活動に取り組むなど、こどもたち、保護者、学校の教職員にとって重要な役割を果たしていただいています。

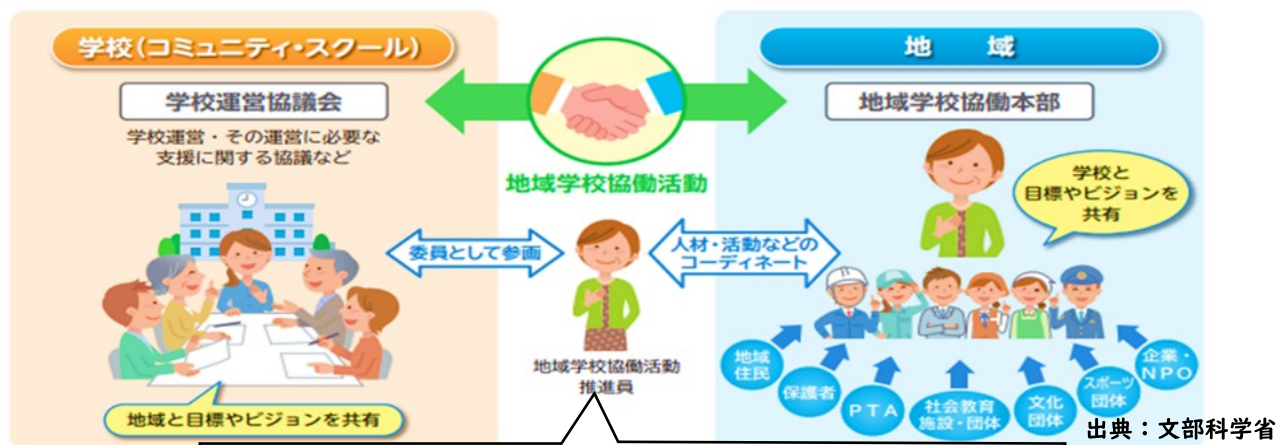


- ・こどもたちが安心して学び、生活できる環境整備活動
- ・学校の授業や学校行事、地域行事等をサポートする活動
- ・保護者や地域の方々が知りたいと思っている学校の情報を伝える広報活動
- ・こどもと教職員と保護者や地域の方々とが交流できる活動

広げよう地域教育の輪②

熊本市コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進にかかるモデル事業

文部科学省が推進する「地域と学校の連携・協働体制構築事業」



地域学校協働活動推進員とは
教育委員会から委嘱を受けた地域と学校との橋渡し役の方です。

コミュニティ・スクールとは

学校運営協議会※1を設置している学校のことで、学校と保護者、地域の方々が力を合わせてこどもたちの教育を担っていくという考えで、学校の運営に参画してもらい「地域とともにある学校」の実現を目指す制度です。

※1 学校と保護者、地域の代表者等で構成される会議のことです。
「こんなこどもを育てたい」など話し合っていくところです。

地域学校協働活動※2とは

地域住民、保護者、学生、企業等の参加で、こどもたちの学びや成長を支え、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域がパートナーとして連携・協働して行う活動です。

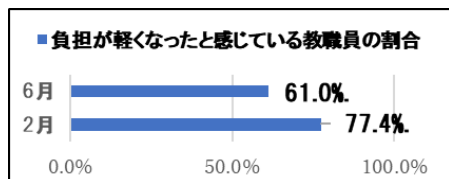
※2 学校に対する多様な協力活動、ボランティア活動、社会奉仕体験活動、自然体験活動などです。

本市では、令和6年度からモデル事業を開始し、初年度は4校に取り組んでいただきました。モデル校では、学校に設置されている「学校評議員会」をもとに、学校運営協議会をシミュレーションする「拡大評議員会」を設置して取組を進めました。

本市のモデル事業の特色としては、「こどもの参画」に重点をおいていることです。モデル校では、こどもたちが拡大評議員会委員として参加し、学校や地域の課題について大人と一緒に話し合っています。

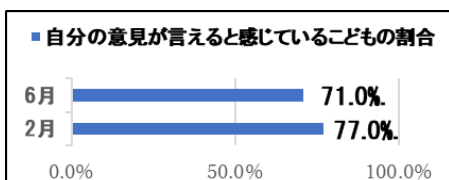
効果を検証するために、モデル校の小中学校3校で昨年度の6月と2月にアンケートをとりました。結果の一部を下記に紹介します。また、モデル校での主な取組を次ページで紹介します。

【教職員へのアンケート】対象：小学校2校・中学校1校教職員 回答：教職員6月：53人 2月：59人



「こどもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる」「地域の方がこどもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている」などの回答が多くみられました。教職員にとって、働き方改革につながる効果の表れと言えそうです。

【児童生徒へのアンケート】対象：小学校5・6年生及び中学校1，2年生 回答：児童生徒6月：224人 2月：209人



「他の人と異なる意見でも自分の意見を言える」（こどもの意見表明）については6ポイントの増加がみられました。こどもたちが意見表明・参加しやすい環境づくりの工夫をしたことなどによる効果と言えそうです。ここに紹介した2項目以外のアンケート項目でも、全体的に向上が見られました。

広げよう地域教育の輪②

熊本市コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進にかかる モデル事業

城南小学校

6年生と地域の方との交流を通して、 まちづくりについて考え、行動する活動

6年生の総合的な学習の時間で、「まちづくり」について学び、地域の方と意見を出し合いました。

ワークショップにおいては、ファシリテーターとして水野直樹氏をお迎えし、より活発な意見が出る活動となりました。情報誌にその様子を掲載してもらい、情報発信にもつながりました。

6年児童から

提案された活動は、地域の各種団体が集まる会議の中で共有され、まちづくりに活かされるものとなりました。



健軍東小学校

eスポーツを通じた地域の方との交流

社会福祉協議会と大学の協力により、「校区ふれあいサロン」や民生委員児童委員協議会の方々と交流を行いました。このeスポーツは、地域コーディネーターである地域住民が地域と学校をつないだことで始まったもので、高齢者の健康づくりや、地域交流促進を目的としているイベントです。熊本県立大学の研究室との連携も図られており、県立大の学生がサポートとして入っています。

令和6年度には各学期ひと学年ずつ交流しました。



武蔵中学校

学友団による地域学校協働活動

地域の町内ごとに縦割りで組織し、年間に3～4回の会議を開き、地域の課題について話し合う活動を行っています。6月には学友団の各団長と副団長が、地域の代表者と話し合います。

武蔵中では、学友団会の他にも地域コーディネーターによる活動として、職業講話をしてくださる地域の方を集めていただき、講話を行っています。

また、まちセン・公民館との連携により、出前講座や人権講話なども盛んに行われています。



必由館高等学校

総合的な探究の時間「感じる探究！in必由館」

市役所関係各課や関連機関と連携して「総合的な探究の時間」に取り組んでおり、活動を通して熊本市の魅力や課題などを自分事として捉え、解決に向けて自分のキャリア形成に関連付けながら考えています。

- ・熊本市第8次総合計画の中から高校生や市民に知ってもらいたい内容を中心に取り組む。
- ・統計データを活用する。
- ・NHKアーカイブス等信頼できるインターネットコンテンツを活用する。
- ・資料を収集・分析・整理して発表する。



令和6年度モデル校の4校では、校長先生のリーダーシップのもと、各校の特色に応じた取組を進めていただきました。令和7年度は上記の4校に田底小学校、飽田西小学校、力合小学校、天明中学校の4校を加えて取組を進めています。

お問い合わせ先 地域教育推進課 TEL：328-2276